

# 「止まらないSTAR」の実現を目指して

## — STAR-IVサービスを担う大阪事業所の開設 —

野村総合研究所（NRI）は、リテール証券のバックオフィス業務をサポートする共同利用型システム「STAR-IV」の大阪事業所を昨年開設した。東京と大阪の2拠点体制となり、災害などの緊急時のサービス継続が可能となったことで、利用する証券会社にさらなる「安心感」を提供している。

証券ソリューション事業本部  
証券ソリューション事業三部長

はやしだ たつひと  
林田 樹人

専門は証券会社向けシステム企画・営業



### 10年ぶりの大阪拠点の再開設

STAR-IVは、証券会社の取引形態に対応し、口座開設や注文・決済のほか、コンプライアンス、営業日報、財務会計などの機能を持ち、証券会社全体の管理をトータルにサポートするバックオフィスシステムである。

2015年でサービス開始から41年目を迎えるSTAR-IVは、国内証券会社を中心に60社以上に導入されており、社会インフラとも言える存在に成長した。万が一何らかの理由でサービスが停止した場合、社会への影響は甚大なものとなる。

このSTAR-IVサービスの事業所は、以前も東京と大阪に2拠点を構えていたが、利用する証券会社の東京一極集中化を受けて大阪の事業所を閉鎖した。しかし2014年4月、大阪随一のオフィス街である淀屋橋に約10年ぶりに事業所を再開設した。

### BCPを考慮したオフィス環境

今回、大阪に事業所を開設した理由は2つ

ある。1つは、STAR-IVサービスを利用する西日本の証券会社が増えてきたことだ。いわゆる地場証券の他に、銀行系の証券会社も増えてきている。もう1つは、BCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）の観点だ。東京の事業所が何らかの理由でサービスを継続できなくなった場合に、大阪の事業所がリアルタイムにそれを引き継ぎサービスを継続させる。

2014年、金融庁が公表した「金融モニタリング基本方針」によると、モニタリング対象に証券会社が追加されることになった。それだけでなく、基本方針では、中央防災会議における首都直下地震や南海トラフ地震に対する防災計画を踏まえ、「主要なリスクを十分想定した業務継続体制を整備しているか、中央防災会議の検討結果等を踏まえて業務継続計画の見直しを実施しているか、検証する」と言及している。

2011年3月11日の東日本大震災直後の混乱やその後の計画停電などの影響を受け、NRIは東京以外のサービス拠点の構築を模索してきた。また、証券会社に対してサービス

を提供している立場からも、この当局の動きを非常に重視し、首都直下地震の影響を受けない地域、交通網の便利な地域、金融人材も豊富な地域を条件として検討し、大阪にサービス拠点を再度構えることとなった。もちろん停電の影響を受けない自家発電装置を備えたBCP性能の高いオフィスに入居した。

## 大阪の証券業界に貢献

2014年4月に大阪事業所を開設した後、東京事業所で担当していた営業サポートのうち、関西を中心に名古屋以西（近畿、東海、北陸、中国、四国、九州）の証券会社の担当を速やかに移管し、大阪での営業サポートを開始した。お客さまを集めたユーザー会も大阪事業所で開催するなどし、お客さまからは「距離感も近くなった」という評価を得ている。

また、東京事業所で一括して受け付けていたSTAR-IVヘルプデスクサービス（システム操作などの問い合わせ窓口）を2014年10月に大阪事業所でも開始し、東京・大阪の2拠点でのヘルプデスクサービス体制とした。ヘルプデスク担当者やオフィススタッフには、大阪の金融機関での就業経験のある人材を中心に採用した。

大阪の事業所ということで、日本証券業協会大阪地区協会や大阪取引所の方々とも情報交換をしている。大阪地区協会からは、会員の証券会社を対象としたマイナンバー制度に関する説明会に講師を派遣してほしいとの依頼を受けて協力した。関西経済圏のさらなる発展に向けた相談も受けている。我々として

もせつかく大阪に拠点を設けたのだから、大阪から証券業界の発展の一翼を担いたいと考えている。

## 複数拠点化による今後の展望

STAR-IVサービスを運営するためには、営業サポートやヘルプデスクサービスの他に、証券会社を取り扱う銘柄情報の登録や、システム設定作業といった付帯業務も必要だ。これらの業務に対しては、BCPという観点を考慮し、銘柄登録業務などの一部の重要な業務はNRI大連にBPO（Business Process Outsourcing：業務委託）し、東京と大連での二重運用を開始している。今後は全ての付帯業務に対して、東京・大阪・大連での3拠点運用を開始することになる。

また2016年度には、当社は国内で6箇所目となるデータセンターを大阪に開業する予定だ。すでにSTAR-IVサービスとして遠隔地のデータセンターでのデータバックアップ（参照業務用）サービスを提供しているが、本格的なDR（Disaster Recovery：災害復旧バックアップサイト）サービスを、この新設する大阪のデータセンターを利用して開始する予定である。

複数拠点によるサービスの提供や付帯業務の二重化、そしてシステム面においてもDRサービスを構築することで、STAR-IVサービスを「止まらないSTAR」にすべく努力していく考えだ。これにより、真に証券業界に貢献できるとともに、お客さまにさらなる「安心感」と「満足感」を提供できるものと確信している。